

時事解説

令和 8 年度植物防疫研究課題の概要

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究開発官(基礎・基盤, 環境)室

はじめに

世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや、地球環境問題への対応、海外市場の拡大等、我が国の農業を取り巻く情勢が大きく変化している。こうした情勢の変化を踏まえ、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が令和 6 年に改正された。改正基本法では、食料安全保障の確保、環境と調和のとれた食料システムの確立、農業の持続的な発展のための生産性の向上等を図るため、基本理念を見直すとともに、関連する基本的施策を定めている。新たな基本理念である食料システムの基本的施策として、農業生産活動における環境への負荷の低減の促進等が規定されている。この基本理念の実現を後押しする「みどりの食料システム戦略」では、2050 年までに目指す姿として農林水産業の環境に関する様々な目標の数値指標（KPI）を設定しており、植物防疫に関連する KPI として、化学農薬の使用量（リスク換算）の 50% 低減や有機農業の取組面積の割合を 25%（100 万 ha）に拡大することが掲げられている。これら KPI の達成には現在の技術の普及だけでなく、イノベーション等による新たな病虫害防除技術の開発が必要とされている。

以下に、まず令和 8 年度の農林水産研究予算概算決定の概要を述べ、次に、みどりの食料システム戦略の KPI 達成に向け、植物防疫に関連する主なプロジェクト研究について紹介する。

I 農林水産技術会議事務局が関係する令和 8 年度予算概算決定及び令和 7 年度補正予算の概要

以下に、主な事業名、研究・事業内容を記す。

1 スマート農業技術活用促進総合対策（令和 8 年度予算概算決定額：3 億 4 千 1 百万円）、令和 7 年度補正予算額：89 億 7 千 0 百万円）

現場課題の解決に向けて、ロボット、AI、IoT 等の先端技術を用いた省力化・効率化を可能とするスマート農業技術の開発・供給を推進するとともに、スマート農業普及のための環境整備を行い、スマート農業の社会実装に向けた取組を総合的に展開する。

2 戦略的農林水産研究推進事業（令和 8 年度予算概算決定額：9 億 1 千 2 百万円）

政府戦略や政府方針で掲げる農林水産業に関する目標や目指す姿の実現に向けて必要な技術の研究開発を国主導で推進するとともに、研究成果の社会実装に向け、知財の活用を見据えた研究開発時からの戦略的な知財マネジメントの強化など、研究成果の社会実装に向けた環境整備を実施する。

（1）食料安全保障強化研究

生産性の抜本的向上や農業生産基盤の持続的な保全等に資する技術の開発により、国内の農業生産の増大を図り、我が国の食料安全保障の確保に貢献する。

（2）気候変動適応研究

深刻化する気候変動に対し、我が国の農林水産業においても的確に対応していく必要があることから、温暖化「デメリット」の適応技術や温暖化「メリット」の利用技術等の開発により、気候変動に対して強靱で、持続可能な農林水産業の実現を図る。

（3）輸出拡大研究

海外の規制やニーズに対応した生産体系や輸送技術など輸出拡大に資する技術を開発し、「海外から稼ぐ力」の強化に貢献する。

（4）環境負荷低減対策研究

農林水産業に起因する環境負荷の低減を図るため、農林水産業における気候変動対策や生物多様性保全対策等に資する技術を開発し、環境と調和のとれた食料システムの確立に貢献する。（後掲）

Government Research Projects on Crop Protection in 2026.

（キーワード：令和 8 年度予算概算決定、植物防疫研究課題、農林水産技術会議事務局）